

自宅と在宅系施設における訪問リハビリテーションの効果の違い

1. 研究の対象

2014年7月～2018年9月に訪問看護ステーショングラーチアにおける訪問リハビリテーションを受けた方

2. 研究目的・方法

訪問リハビリテーション（リハ）の目的は、主体性のあるその人らしい生活の再建及び質の向上を図ることです。その目的達成のため、訪問リハは利用者本人のみならず、家族、環境を考慮したアプローチを行い、ADL や趣味、家事動作などの生活能力を向上させ、生活を豊かにすることが求められています。訪問リハが対象とする利用者の住まいは、自宅のみならず、住宅型有料老人ホームなどの在宅系施設などが挙げられます。これら訪問先の環境の違いによって、訪問リハの効果異なることが予想されます。当法人では訪問リハは、ADL、IADL を向上、生活範囲を拡大させ、生活を豊かにする可能性を示しましたが、訪問先の環境の違いによる効果について詳細な検討は行っていません。そこで今回、自宅と在宅系施設それぞれにおける訪問リハの ADL、IADL、生活範囲に対する効果を比較、検討します。

訪問看護ステーショングラーチアリハ部門では、訪問リハの開始時と終了時に訪問リハ担当者が身体機能評価や生活状況の評価を行っています。今回の調査には、このデータを用います。方法は、開始時と終了時の生活行為に関するデータを比較します。

これらの研究は、2019年1月～2019年9月の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、身体機能の情報、生活状況の情報 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院訪問看護ステーショングラーチア

リハビリテーション部門 研究責任者 飯野雄太

住 所：群馬県伊勢崎市大手町 1 番 1 号

TEL：0270-20-1588 FAX：0270-20-7677